

松山市男女共同参画事業実施計画 令和2年度 実績報告（統計版）

令和3年11月
市民部 市民生活課

実績報告の概要

- ・各事業を担当課で自己評価（目標への達成度、課題、成果など）
- ・全事業を市民生活課で取りまとめ・分析
- ・男女共同参画会議でのご意見を加え、報告書を市ホームページに掲載

主要課題 1 男女の人権の尊重

～互いを理解し尊重します～

20事業のうち、1事業が中止、6事業が一部中止・縮小・変更

目標達成度の平均値 4.1点／5点

男女共同参画への配慮度の平均値 4.1点／5点

【課題と成果】

- ・新型コロナウイルス感染症の影響で開催方法が変更・縮小になった事業が多く、質の低下にならないよう検討が必要と回答した課が多い。
- ・研修や情報共有のための会議などはオンラインでも実施に問題がなく、十分効果を得られることが分かった。

主要課題 2 社会制度・慣行の見直し ～豊かに暮らせる社会を目指します～

9事業のうち、1事業が中止、2事業が一部中止・縮小・変更

目標達成度の平均値 3.9点 / 5点

男女共同参画への配慮度の平均値 4.5点 / 5点

【課題と成果】

・コムズ開催の男のスキルアップ講座では、目標を上回る参加者を獲得できたが、新型コロナウイルス感染症の感染防止の観点から、料理講座の際、調理後試食の是非について再考が必要である。

・人権啓発推進員の研修や講座では新型コロナウイルス感染拡大防止のため、会場開催からレポート形式に変更し実施した結果、受講者数増加につながった。

主要課題 3 方針決定過程への女性の参画拡大 ～多様な意見が反映される社会を目指します～

14事業のうち、1事業が中止、6事業が一部中止・縮小・変更

目標達成度の平均値 3.7点 / 5点

男女共同参画への配慮度の平均値 4.5点 / 5点

【課題と成果】

・新型コロナウイルス感染症の拡大に留意して、集合形式での映画上映や講座の実施は今後も困難になることを想定した事業運営をする必要があると答えた課が多い。

・松山市審議会等の女性登用計画では初めて目標である40%を上回り、43%となった。

主要課題 4 仕事と生活の調和 ～仕事と生活の調和が図られる社会目指します～

29事業のうち、1事業が中止、14事業が一部中止・縮小・変更

目標達成度の平均値 3.3点／5点

男女共同参画への配慮度の平均値 4.3点／5点

【課題と成果】

- ・新型コロナウイルスの影響をはじめ、社会環境の変化や本市を取り巻く現状をふまえた進捗管理・運営を行って行く必要があると答えた課が多い。
- ・在宅就労者として就労困難者を雇用した事業所に奨励金を出す事業で目標を上回る752人を雇用することができた。テレワーク推進のための自治体独自の取り組みとして厚生労働省や総務省にも取り上げられた。

主要課題 5 地域防災分野での男女共同参画 ～災害時こそ互いを配慮します～

8事業のうち、1事業が中止、3事業が一部中止・縮小・変更

目標達成度の平均値 4.7点 / 5点

男女共同参画への配慮度の平均値 4点 / 5点

【課題と成果】

- ・男女共同参画への配慮度で、⑤の項目が当てはまらない事業が多いため、市民からアンケートを取るなど、客観的な評価を取り入れる必要がある。
- ・目標達成度は、平均値4.7で全ての事業で達成度4か5を達成しており、防災・減災意識の高まりや、災害時の男女共同参画の重要性の周知を図ることができた。

主要課題 6 教育分野での男女共同参画 ～豊かな人間性を育む教育を目指します～

10事業のうち、3事業が中止、6事業が一部中止・縮小・変更

目標達成度の平均値 3点／5点

男女共同参画への配慮度の平均値 4.5点／5点

【課題と成果】

・ほとんどの事業が新型コロナウイルスの影響で中止や縮小、オンラインでの実施等となり、コロナ禍に合わせた実施方法を今後も検討する必要があると答えた課が多い。

・色々な角度での男女共同参画の講座を行い、仕事と家庭の両立や自分らしい生き方など幅広い世代に自分らしい生き方を考える機会を提供できた。

総まとめ(分析)

- 新型コロナウイルス感染症の影響によって、全90事業のうち45事業は予定通り実施できたが、一部中止・変更・縮小により開催方法を見直し実施したのが37事業で、8事業が中止となった。
- こうした中、各事業で設定している数値目標に対する達成度については、34事業で5点満点（目標を達成できた）となったが、中止や、数値目標がない14事業を除き、42事業は数値目標を達成できていない状況である。
- 特に、主要課題6に該当する事業は、学校（子ども）や地域（高齢者）に対して教育や啓発を中心に行っている特性があり、コロナ対策のために主催者側が慎重な判断を行い、参加者側も出席を控えたりしたものが多く、その結果、4割の事業の目標達成度が3点以下となった。
- 男女共同参画への配慮度では、5項目全てについて配慮できたという結果は38事業であったが、その他の事業では、5項目の内「検証にあたり客観的な評価を取り入れた」の欄にチェックがついていないものが多く見受けられたことから、市民アンケートなどを取り、対外的な評価を積極的に取り入れる必要がある。
- 新型コロナウイルス感染症の影響は、未だ完全に収まったとはいえないが、今年度も、対面を避けレポート形式にするなど、工夫して事業を実施した結果、例年より集客が増えるなどの反響を得た事業もある。そういった取組を、今後に活かしていくとともに、他事業にもノウハウを水平展開するなどして、コロナ下でも継続可能な事業形態を検討していく必要がある。

男女共同参画会議からの提言

- 男女共同参画への配慮度④の、「男女共同参画に配慮できたかを含め、事業結果を検証し内部で共有したり、外部に公表するなどした」は、評価項目が複数あり多いので、少し絞ってはどうか。配慮したかどうかについてはせめて〇がつくようにしてほしい。
- コロナ禍とはいえ、実施できませんでしたというだけでは、市民からするとその分の予算はどうなったのか、実施しないだけでは済まされないという意見もあるので、不測の事態は常に想定し代替案を考えておくことが必要。
- 相談窓口が多いのは良いが、自分がどこに相談すれば良いのか分かりにくくなっている。総合窓口のようなものと、専門的なものを併記せず、見せ方を工夫してほしい。
- 委員会等の準備に係る職員の仕事を極力減らすよう、効率化・ペーパーレス化を進めてほしい。